

令和6年度 学校評価アンケート（教職員評価）

（評価） A=よくできた B=ややできた C=あまりできなかった D=全くできなかった

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	令和6年度					令和5年度		今年度の成果	次年度への課題と取組み	学校関係者評価委員の提言	
				A	B	C	D	平均	評価	平均				評価
1 開かれた学校づくり		学校説明会の実施	生徒による説明のウエイトを増した説明会の実施	26	13	1	0	3.6	A	3.8	A	・オープンハイスクール・学校説明会は、体験授業やワークショップの実施等、昨年度と内容・実施回数を変更し、より質の高いものとなった。参加者アンケートでは高い評価を得ることができた。	・参加者アンケートをもとに、より良いオープンハイスクール・学校説明会を実施。	学校説明会の実施や広報活動の充実が評価に表れている。次年度以降、2校が共存する中で、北高の存在をしっかりとアピールしてほしい。
		広報活動の充実（教育活動の広報）	学校紹介パンフレットの更新 「北高だより」の定期的発行 学校HPの更新 公開授業の実施	25	15	0	0	3.6	A	3.7	A	・学校パンフレット、リーフレットを刷新し、学校の魅力を伝えることができた。 ・学校ホームページ、北高だより、にしたきブログを通じて北高の様子を定期的に発信することができた。 ・保護者公開授業は、6月、11月の2回実施することができた。	・学校の魅力がより伝わるようなパンフレット、リーフレットの作成、学校紹介動画の作成。 ・各種SNSを活用した広報活動の実施。	HPで日頃の様子が見えるのは良い。
		広報活動の充実（ニーズ等調査）	中学校訪問の実施、および中学生・保護者のニーズ把握	21	16	3	0	3.5	A	3.3	A	・西宮市内すべての中学校への訪問の他、宝塚、伊丹、川西市のすべての中学校への広報活動を実施した。	・中学校訪問を継続して実施。	生徒のがんばっている様子や先生方の指導の取り組みをさらに発信していけばよいのではないかと。
		地域交流の推進	地域行事への参加 ボランティア活動の実施（全校生による勤労体験等） 福祉施設・幼児施設との交流	17	19	4	0	3.3	A	3.5	A	・苦楽園夏祭り、餅つき大会が開催され、生徒会を中心に運動部の協力を得ながら参加できた。地域の方々と交流を深めることができた。 ・吹奏楽部・ダンス部が地域のイベントに参加し、日頃の練習の成果を披露できた。	・地域行事には積極的に参加し、地域との交流を深める ・ボランティア活動に参加し、さまざまな体験をする	小学校で出前授業を実施して児童生徒の連携はできているが、教員同士の連携をさらにしていく必要がある。
		小学校児童との交流	生徒による小学校出前授業の実施	22	17	1	0	3.5	A	3.6	A	探究の授業の一環として、生徒が授業目標を立てて指導案を作成し授業を実施し、実施後もさらに内容を再検討し自己の成長につなげた。	今年度をベースにさらなる内容の向上と自己成長を促したい。	
2 生徒指導		生活習慣の確立	挨拶・マナー遵守を始めとした基本的な生活習慣の確立	6	30	3	1	3.0	B	3.1	B	・毎朝柏堂のバス停まで行き、通学路の安全確保とともに、遅刻の防止に努めた。 ・次年度からの標準服化に向けて2回の試行期間を実施し、ルールづくりの参考とした。	・時間厳守など生活習慣の確立については継続して指導していく。 ・本格的に標準服化が始まるので、本校の実状に合ったルールづくりをしていく。	地域活動に積極的に参加してくれて非常に助かっている。
		生徒指導体制の推進	いじめに関するアンケートの実施、及び対策の推進	17	20	3	0	3.4	A	3.6	A	学期に1回アンケートを実施し、気になる生徒には担任が聞き取りをし、丁寧に対応できた。	次年度も年3回のアンケートを実施し、何かあれば初動を適切にし、丁寧に対応していく	
		学校行事の充実	文化祭、体育大会、2学年生活訓練合宿等、学校行事の円滑な実施	19	21	0	0	3.5	A	3.5	A	各行事も生徒会、各係が中心となって充実した行事ができた。	次年度も、各部署との連携をしっかりと行い行事の円滑な実施をしていく	小中高が密接しているため、3つが連携した取り組みをしてみようか。また、その際、児童生徒のみならず、教員も連携するとおおい。
		生徒の自主性の向上を目指す課外活動の充実	体験入部・部長会議開催・掲示板の活用などによる部活動の活性化	8	23	8	1	3.0	B	3.1	B	いきいき部活動の方針に基づき、限られた時間で効率的な部活動運営に取り組んだ。	入部率を上げるとともに、中途退部者をいかに減らすかが課題である	
3 進路指導		高社連携の推進	県庁・民間インターンシップの実施 ふれあい看護体験・ふれあい育児体験の実施	11	23	6	0	3.1	B	3.0	B	コロナ明けで医療機関からの看護体験の募集が増え、高い意識を持った生徒が自ら動いて充実した体験を得ることができた。	医療機関と生徒をスムーズにつなぐ橋渡し役としてさらに綿密な連携をとること。	「生活習慣の確立」について、生徒保護者ともによい評価となっていることは、先生方の指導の成果と受け止めている。
		進路意識の向上	社会人による講演会、卒業生進路を語る会の実施 進路ガイダンス・模擬授業の実施	23	15	2	0	3.5	A	3.5	A	今年度の新たな取り組みとして、高大連携の一環で神戸大学より講師を招き、2年生を対象に進路講演会を開催し、受験年度に向けた意識喚起を高めた。	当該学年の生徒のニーズを把握し、よりフィットした内容を精選していくこと。	
		P.T.Aとの連携	P.T.A進学講演会の実施、進路相談の充実	19	19	2	0	3.4	A	3.4	A	・外部講師による保護者向け進路講演会の実施した。 ・例年通り近畿大学より講師を招き、保護者向け進路講演会を実施した。	・今後も継続して実施したい。 ・社会情勢に合わせた講演の内容を吟味し、保護者に提供すること。	欠席者の増加は、生徒だけの問題ではない。保護者も欠席に対する意識を変えていく必要があるのではないかと。
4 教職員の資質向上		教員の指導力向上	公開授業・研究授業の実施 ★ICT機器・BYOD端末の活用	11	27	1	1	3.2	B	3.2	B	オープンルームを3回実施し、回を重ねるごとに授業参観率が上昇した。	授業参観のみならず、簡単な意見交換の場を設けるなど、フィードバックが効果的にできる仕組みづくり。	
		小・中学校教員との交流	小・中学校教員との合同研修会実施	2	14	22	2	2.4	C	2.3	C	全学年にBYOD端末が導入されたこともあり、教員自身もiPadを活用する率が上がった。 公開授業・行事の一部で相互参観を行った。小・中学校教員との合同研修会については実施できなかった。	効果的な使用方法を学校全体で共有すること。 次年度以降の合同研修会の実施については、実施の方法等を検討する。	登下校時の姿勢など小中学生の手本となるように指導してほしい。
5 環境整備		落ち着いた学習環境の整備	校内整備・美化の推進	13	25	1	1	3.3	A	3.2	B	・トイレ改修やエアコン整備、教室の床・壁が張り替えられるなど、快適な環境が実現されつつある。 ・定期的な大掃除に加え、清美委員が中心となって実施した2・3年生教室ワックスがけの他、勤労体験学習による校内一斉清掃を実施した。	・落ち着いた学習環境の整備の継続。	
6 自ら学び自ら考える力の育成		問題解決的な学習の展開	主体的・対話的で深い学びの実施、小論文指導	10	26	4	0	3.2	B	3.1	B	・公開授業を行い、各教員の取り組みを相互に取り入れながら授業改善を行った。	・総合的な探究の時間での探究的な活動をさらに活性化させる。 ・BYOD端末の効果的な利用など、授業の研修を行っていく。	
		生涯学習の視点に立った実践能力の育成	読書活動の推進（ビブリオバトル、読書マラソン）	11	26	3	0	3.2	B	3.3	A	・図書委員が中心となり運営したビブリオバトル（7月、12月）の実施、読書マラソンの実施、図書だよりの定期的な発行により、読書活動の推進を行った。 ・11月にビブリオバトル兵庫県大会に2年生1名が出場した。	・今後もビブリオバトル等を通じて、読書活動の推進を行いたい。	
		指導方法の工夫による生徒の学力向上	初期指導の充実、週末課題の推進、補充・補習の推進	14	22	4	0	3.3	A	3.4	A	・週末課題を適切に課すことができた。成績不振者への補充、大学入試に向けた補習、基礎学力伸長のための補習を行うことができた。 ・週末課題を設け、朝のSHRで小テストを実施している。課題の期限内提出、小テストの十分な生徒には放課後指導を行っている。考査前に国・数・英それぞれ希望者補習を行った。3学期から数学は朝補習を行っている。	・個人的な取り組みを組織的な取り組みに広げていく。 ・学習について目標をもって取り組めるよう指導していく必要性を感じている。課題が提出できないものへの指導が必要である。	校内研修会から提案された「オープンルーム週間」やKPによる「公開授業週間」の実施は素晴らしいことだと思う。さらに中堅教員のスキルアップやデジタル機器の堪能な若手教員とさらにそれを苦とする年配教員とのグループネットワークのようなものがあればよいのではないかと。
		評価規準の設定	観点別学習評価を進め、指導と評価の一体化を図る	13	26	1	0	3.3	A	3.1	B	・適切に評価を行うことができ、観点別評価を見据えて指導を行うことができた。 ・生活状況、学習実態調査などを行い、担任が面談を定期的に行っていた。模試では配信コンテンツを利用し、予習復習をおこない受験の意義の理解をはかった。	より統一感のある評価になるように努力する。	
7 基礎・基本の定着		自主学習の推進	家庭学習習慣の確立	7	25	8	0	3.0	B	2.9	C	・週末課題を適切に課すことができた。 ・予習復習などをすること、小テストの準備をすること週末課題をすることが家庭学習のきっかけとなった。	・課題の内容をよりよいものにする。自主学習の重要性を生徒に理解させる努力をする。 ・課題を与えられなくても自らが家庭学習に取り組むことができるようにしていくことが課題である。	スタディサブリの活用法について吟味していく必要がある。
		指導形態の工夫	効果的な習熟度別・少人数授業の実施・生徒との実態に応じた科目設定	12	26	2	0	3.3	A	3.1	B	習熟度別授業を増やすことで、英語力伸長につながった。	選択科目の適切な配置を実現していく。	スタディサブリを効果的に活用できると良い。
		生徒の状況把握	生活状況調査の実施、生徒面談の充実 効果的な模試結果の実践と情報等の共有	17	20	3	0	3.4	A	3.4	A	・読書をする生徒の割合が低下していることが判明した。 ・職員会議・職員研修などで模試結果をまとめて情報提供した。また、各学年のGoogleClassroomを活用し、生徒にとって有益と考えられる情報提供を充実させた。	・各種調査結果を指導に活かしていく。 ・生徒にとってリアルタイムで重要な情報を精選し、適切なタイミングで提供すること。	
8 個に応じた学習指導		生徒の学力向上	北高手帳、スタディサブリの活用	13	23	4	0	3.2	B	3.0	B	・授業やHRで重要な連絡を手帳に書かせている教員が多いクラスでは、手帳を活用できている生徒が多い。 ・北高手帳は自身の目標記入などをして学習意欲を向上させるようにした。日々の連絡事項などをこまめにメモを取ることができるようになっていた。スタディサブリは課題配信を定期的に行い活用した。	・受験勉強開始に向けた手帳の活用。とりわけ、計画せずに、やみくもに学習を始め、焦り、学力向上につながっていない生徒がいる。 ・手帳を活用できていないものがあるため、どのように使わせるかが課題である。スタディサブリは課題配信以外の講座を積極的に取り組ませることが必要になる。	校内で行う防災訓練にとどまらず、生徒が学校外で災害に直面した場合の対応など、多角的な安全教育の実施と防災意識の育成をしてもらいたい。
		安全意識の高揚	教職員及び生徒を対象とした心肺蘇生法・AED講習会の実施	26	13	1	0	3.6	A	3.5	A	・救急法講習会（AED講習会）を全職員と部活動代表生徒を対象に実施、日本赤十字社の方による指導。薬物乱用防止講演会を近畿厚生局麻薬取締部より講師を招き全クラスオンラインで実施。 ・防災学習は、各クラスでパワーポイントを用いて実施、避難等の問題点を考えさせた。	防災教育のあり方や実施方法などを検討する必要がある。本校の現状に合った防災マニュアルの見直しなどを通して、全職員の防災意識を高めていきたい。	小学校の、地域と連携した防災学習が参考になる。
		防災意識の高揚	防災訓練・防災学習の実施	16	22	2	0	3.4	A	3.4	A			特別な支援を要する生徒が増える状況にあり、コーディネーターを中心に個々の生徒理解を深めてほしい。
9 安全教育		安全意識の高揚	教職員及び生徒を対象とした心肺蘇生法・AED講習会の実施	26	13	1	0	3.6	A	3.5	A			
		防災意識の高揚	防災訓練・防災学習の実施	16	22	2	0	3.4	A	3.4	A			
10 人権教育		確かな人権意識と態度の育成	人権意識を啓発する人権学習HRの実施 人権講演会の実施	17	22	1	0	3.4	A	3.5	A	今年度は「外国人の人権と部落差別」についての講演を聞き、研修を行った。	多種多様な人権課題のうち、生徒たちに身近で理解しやすいテーマをどう示していくかが課題	
課題教育		1-1 特別支援教育	一人一人の多様な教育的ニーズに応じた教育の充実	16	21	3	0	3.3	A	3.4	A	教職員カウンセリング・研修会を実施。日頃のキャンパスカウンセリングの積極的な利用推進と連携により、教育相談は充実し効果的であった。特別支援が必要な生徒への指導も平常化している。	特別な支援が必要な生徒について、職員同士の一層の情報共有と連携を強化したい。	英語力向上の取り組みは効果が出ており、今後に期待したい。
		1-2 地域連携	体験的・実践的な教育活動の推進	15	20	5	0	3.3	A	3.1	B	生徒会やダンス部、吹奏楽部が地域のイベントに参加し、貢献できた	次年度も、今年度同様、さまざまな地域行事への参加で、地域との連携を深めていく。	
		1-3 学校の特色化	特色選抜入学生生の活動の充実	1学年での取り組み内容の精選 探究活動及び成果の発表	14	24	2	0	3.3	A	3.4	A	やっちゃん甲子園に出場し、市長の前でプレゼンを行った。また、特色生が北高と苦楽園高校の架け橋として何が出来るかを考え、3月発表に向けて取り組み中。	西宮苦楽園高校の推薦入学生生の取り組みについて検討していく。
1-3 学校の特色化		各類型および全校の特色ある事業の推進	英語力向上プロジェクトの実践 施設訪問・見学の実施 特色化推進部を中心とした特色類型の取り組みの検討 理科観察実験の内容充実	17	21	2	0	3.4	A	3.3	A	・本校独自の英検対策HPを開設。オリジナル対策用材を提供している。英検5-CBTを推奨し、2級取得生徒が増加した。 ・科学研究を通じて、毎週の観察実験を行えている。 ・2年生社会探究類型生徒を対象に本年度はJICA出前講座を実施予定。	英検対策HPのコンテンツの充実と活用が課題。	やっちゃん甲子園の探究活動の充実を期待している。
		★探究活動の推進	★学校全体での探究活動の推進	15	23	2	0	3.3	A			本校独自の探究活動を創造している。3月10日に実施する探Qランプリでは1・2年生で探究の成果を共有する。	試行錯誤段階であり、課題も多いが、担当教職員らが積極的に探究授業を行い、成功や失敗を通して得られるものも多い。	

※ 評価値 = (4×Aの人数 + 3×Bの人数 + 2×Cの人数 + 1×Dの人数) / 全体人数 (小数第2位四捨五入で表示) 評価 A≧3.3 B≧2.9 C≧1.6 D<1.6